

しんぶん赤旗 きょうの潮流 2018年11月26日

ここはアジアのアルカディア。明治初期に日本各地を回ったイギリスの女性旅行家イザベラ・バードは、山形の米沢盆地を訪れたときの印象を『日本奥地紀行』にこう記しています▼アルカディアとは古代ギリシャの理想郷。豊かな大地や美しい農村の光景を目にしたバードの感嘆ぶりが伝わります。今年も届いた「日本の米カレンダー」が冠雪した蔵王連峰を背にした刈田の風景とともに紹介しています▼日本の文化は米づくりの上に築かれ、山や川の自然も農民によって守り育てられてきた。ところが、いまや農業は危機に瀕している。なんとかしなければ—。そんな思いに駆られてつくり始めた暦も2019年版で創刊30年に▼「日頃考えている農業の大切さではあっても、改めて『風景』で眺めてみると、そこに歴史の足音が聞こえ、先祖たちの声が聞こえ、戦乱の土煙、嵐や洪水の怒濤(どとう)まで伝わって、活字で考えるのとはまた違った日本文化への思いが、こみ上げてくる」(『日本の米』)▼毎年のカレンダーに国の土台や自然環境を失ってはならないとの決意を込めてきた作者の富山和子さん。1万点もの写真から12枚をえりすぐり、趣のある詩文をつける大変な作業のくり返し。節目の今回で制作から退くといいます▼いま安倍政権は米国との新貿易交渉によって、さらに日本の農を壊そうとしています。政府の失策を訴えつづけてきた富山さんは最後の作品でも。“守るものは守るという断固とした意思を示すことが政治ではないのか”